

洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

大学の使命

洛友会会長
大正元年卒業

鳥養利三郎

謹賀新年

本会の発展興隆が今日あるに至ったのは、全く会員各位のお力ぞえによるものであると思います。ここに敬礼を申し上げます。

さて遠慮なく申せば、今の世の中は、われわれの頭の中から、相互融合の道ともいふべき概念が失われた時代で、只一筋に自説強行のための論議に走るを能とするよう、斯くて毎日毎時の名論卓説も、何等功無くして埋り去らる次第となる。

私が京都大学に在職中、たまたま昭和二十二年十月、その開設五十年の祝典で「大学の使命」について講演しましたが、その残存している原稿の一部をお目にかけ、ご批判を願いたいと思います。(この講演は祝賀式で来列者全員にお

聞き願ったもので、国内の方々の外、アメリカの占領軍司令官まで含んでいました)

大学の使命について

京都大学が明治三十年六月洛東吉田の地にその礎を築いて以来、本年を以て正に五十年に達し、今日その記念式典を挙げるに当りて、往時を回想し将来に向って聊か希望を述べる機会を得ましたことは、私の欣びに堪えないところであります。

創立当時、僅か理工科大学の二十一講座を以て発足しましたが、五十年の間に七つの学部と六つの研究所、二百四十七の講座に増加し、学生数八千八百名を数ふるに至ったのであります。その間研究室からは輝かしい幾多の研究業績をあげる傍、三万八千二十名の卒

業生を世に送るに至りましたことは、致々として学究にその一生を捧げられた幾多先人の努力に負うべきは勿論ではあります。一方各方面から大学に寄せられた御協力の成果とも申すべく、今日の日を迎えるに当りて感謝に堪えないところであります。

大学の歴史に就いて見まするにポロニヤの遠きは暫く之れを措くとしても、近代に於ける欧州諸国の著名大学が何れも数百年の歴史を有し、アメリカに於てもハーバード大学が三百年以上の昔にさかのぼるに比べますと、我が大学の僅々半世紀五十年の歴史は、決して長いとはいえないのであります。然し、この五十年は恰もその起伏の最も大なる時期でありまして、その渦中において迂余曲折、波瀾重畳を極めた我が大学の過去を顧みるとき感慨無量なるものがあります。由来京都大学はその設立の事情に於て、後年の学校計画の如く只単にどこそこ一つ学校を造らうという様な考えからでなく、一つの理想と学風を目指して非常な意気込みで設立せられたのであります。一口にしていえば、自由にして清新な学風を企図したのであって、西園寺公の卓見に負う所が多いと聞いて居ります。この自由の精神は本学の伝統として脈々として貫かれ、創設当初から

既に科目制在学年限の伸縮性等、其の他時代に先んじて進歩的な諸制度を採用し、又大学自治の運営に新機軸を出し、其の結果時として学の自由を廻つて数々の事件が発生したことは、自らうなづかれることと存じます。

申す迄もなく大学の使命は研究と教育にあります。學術の蘊奥を攻究しつづ学生に教授する兩者不可分一体をなすところに大学の特色があるのであります。真理の探求、學術の研究の人類に重要なことは、改めて多言を要しないのであります。未知の世界を求め未発の宝庫を開くことは研究の力に俟たなければなりません。人類の福祉は一に之れに係るのであります。近時研究機関の発達するに伴い、学生の教育に力を割かるることなくして、研究のみに専念するところの純然たる研究所が、その研究の目的達成からいへば大学よりは寧ろ有利であるという考えを持つものがあります。勿論或る特殊の目的を以て特定の課題、特に応用方面の研究に対して云うならば、或は研究所が適当な場合もありますが、真に學術の向上発達、文化の進展に寄与する意味に於きましては、云いかえれば基礎研究に於ては大学を措いては他にその中心はないと、確信いたしているのであります。凡そ真理の探

求には燃ゆるが如き好學心と不屈の活力とを必要とします。又、研究成果の発表に対しては徹底せる批判を加えなければならぬのであります。妥協荷合を許しません。而して大学にありましては若い学徒と学生はその熱情、活力、純真さに於て最も良き研究の協力者であり、批判者であり、又後継発展者であります。私共の体験によれば学生に教授すること自身が研究を促進充実にして行くのであります。又学生に取つては、指導教授の研究自体が最上の教育となるのであります。研究者であつて同時に教育者である教授と、理想に燃え活力に富み次代の後継者たるべき学徒学生と、この二つから構成されて居る大学こそは、真に学問、文化、創造、発展の源泉であり原動力であります。斯く考えますならば、我國の学問文化が発達し得るか否かは、一にかかつて大学の如何に在り、我々大学人の責務であると云わねばなりません。同時に此所に研究の自由が護られなければならぬ所以があります。即ち、政治力、社会力等の不当なる干渉圧迫が排除されなければならぬと共に安んじて研究がつけられる保障がなければなりません。大学は真理の探求に忠実ならむ為、に、研究の自由を強く要望するのであります。

この頃思うこと

京都大学名誉教授
大正六年卒業
松田長三郎

70年代の世の中は、国内的にも国際的にも容易ならぬ世界のよう
に思われる。変動の激しい世代を
荷う若い国民の育成には、世界中
の国が真剣に意を用いている。こ
れには教育が根本で、自国の青少
年のみならず、共存共栄の意味か
らも各国がお互いに助け合って、
人類の文化や繁栄・福祉の向上に
努めている。殊に先進諸国は、外
国に対し一つの義務として奨学制
度を設けて、一面には自国の文化
を広く認識してもらうために、又
相互理解を深めるためにも、我國
をはじめ英米独仏露伊など、国自
身か或は国費補助や民間の寄付に
よる財団等により、海外における
視察、研修等に財的援助を与えて
いる。例えば、西独におけるこの
ような機関としては、フンボルト
財団やD A A Dがあり、夫々奨学
金を出している。

フンボルト財団は、有名なドイ
ツの自然科学者アレキサンダー・
フォン・フンボルトを記念して、
一八六九年英国国士院及びロシア
の科学アカデミーが民間からの寄
付金によって、国外での科学研究
調査や探険を志すドイツの自然科
学者に、財的援助を与える目的を
以て創設されたもので、以来幾多
の国の興亡に係わる困難を経、殊
に第一次及び第二次世界戦争によ
って破たんしているが、学術を尊
重するドイツ魂はその度毎に不死
鳥の如く復興し、更に一九六五年
の体質改善を経て現在に至ってい
る。毎年世界各国から三三〇人
(将来は四四〇人に増員)の優秀
な若い学徒がドイツへ招かれてい
るが、我國からも相当数の学者が
選ばれている。現在までに七十二
カ国から約四千人がこれによって
研修していると云われる。年令は
25才から38才まで詮衡の上採択さ
れる。給費は千六百〜一万九千マ
ーク(邦貨14〜17万円)。「ドイ
ツ連邦共和国はベスト・ブレーション以
外に對して、奨学金を支給する余
裕をもたない」と厳しく云われて
いるが、各国から一粒選りの若い
学徒を募集するという意味である
うが、京都からも毎年幾人かは選
ばれている。我國でも毎年多数の
外国留学生を受け入れているが、
必ずしも有効適切な研修が行なわ
れているかどうかは疑わしい。殊
にわが国語の難解は大きな障害に
なっている。これについて思い出
されることは、昭和初頃であった

か日本電気株式会社の社長であつ
た岩垂邦彦氏(電気教室卒業の故
岩垂好徳氏の厳父)が、電気学会
に百万円(現在では10億以上数10
億円に相当する)の所謂、岩垂奨
学資金を寄付され、これによって
毎年一人づつ米國への留学、及び
著名の米國学者、技術者の招聘等
が行なわれて来たが、経済界の変
動による貨幣価値の下落によつ
て、中絶して了つたことは誠に遺
憾である。

ドイツと云えば、40何年前に
ベルリンに居つた当時のことがな
つかしく回想されるのであるが、
当時のベルリン大学物理学教室
は、実験物理学のメッカとも考え
られたケンブリッジ大学のJ・J
・トムソンのキャヴェンディッ
シュ研究所とともに理論物理学の聖
地の如く考えられていて、ブラン
ク、ネルンスト(化学)、フォン
・ラウエ、アインスタイン、プリ
ングスハイム、シュレーディンガ
ー各教授などそうそうたる一世の
碩学が綺羅星の如く輝いていて、
そのコロキウム(ゼミナール)は盛
んなものであった。私は電気工学
ではあるが、盲、蛇におおらずで、
幸いにしてプリングスハイム教授
の親切な案内で時々出席してその
模様を聞いたが、若い研究者の研
究発表に對して、講堂の前列に座
を占めておられる諸星(電気教室

の講義室のような堅い木の椅子一
老令の先生には苦痛であつたと思
う)が、いろいろと質問し意見を
述べられる。こうして十分の質
疑応答を経、討議を重ねた論文
が、Physikalische Zeitschrift für
Physik, Annalen der Physikな
どの学術雑誌に発表されたので
ある。私は幸いにしてこれらの
ノーベル受賞者と面接の喜びを
得たが、ネルンスト教授やアイン
スタイン教授は温厚な学者、プ
ランク教授、ラウエ教授はどちら
かと云えば、少し厳しい感じの
する学者、プリングスハイム教授
は螢光現象の権威者であるが、ヤ
さしい親切な学者、シュレーディ
ンガー教授は波動力学の創始者。
若いように見えたが、私より少し
年長で女性のような温かい柔らか
な手をしておられたことは印象的
であつた。その後、幾星霜、学界
に不朽の名を残したこれら大学者
の幾人かは、悲惨な運命を辿られ
たことは悼ましい。これらの人達
は今では凡て故人である。かつての
ドイツは世界に誇る学術の國であ
つたから、戦前の文部省の在外研
究員の多くはドイツ在留を希望し
た。しかし、第二次大戦以後は、
この傾向はすっかり変つた。それ
は米國が戦勝國として、その財力
に物を云わせて優秀な世界の学者
を招聘したからである。殊にナチ

スに逐われた優秀なユダヤ系ドイ
ツ学者が、米國に大挙して移住し
たから、米國は一躍にして学問、
技術の中心になつた観を呈した。
悠然たる学術を誇つたドイツも、
今はその学術雑誌も独文の外に、
英独兩國語で発表しているものも
あつて、今昔の感に堪えぬ。

我國の学術、技術も経済界の発
展とともに異数の発達を遂げて来
て、斯界の視聽を集めるようにな
つて来たことは慶ばしいことであ
る。一昨年韓國へ行つたとき、同
國の誇る国立科学技術研究所へ行
つたとき、同所長は研究員はソー
ル大学教授より遙かに高給を支給
して、自由に研究に没頭して貰つ
ていると話されたが、研究所員は
期待されることが大であるために
相当の業績を挙げなければならぬ
ので苦しいと洩らしておられた。
又同所長の話しによると、米國に
は相当数の韓國人学者が在留し
ておるが、これらの人達に對して
ノーベル賞に匹敵するような超優
秀な韓國人学者は、人類のために
米國に留まってもよいが、それ以
外の人は國のために帰つて来てほ
しいと呼びかけているとのことであ
つた。

学術の研究は地味なものであ
る。研究自体楽しみでもあればま
た苦しいことも多い。私は夜遅く
今出川通りを帰つて来るとき、電

気教室等の研究室にあかあかと灯がともっているのを見ると(研究は必ずしも夜おそくまで研究室に残っていることのみではないが、今夜もあの部屋々々には、また夜々として研究に没頭しておられる研究者の御苦労を想い、感謝と感銘に堪えぬ思いがするのである。

昨秋は、洛友会の四国、中国、九州各支部總會にお招きを受けて、会長の鳥養先生に代って高松、広島、福岡、北九州へ、幹事の山本茂雄さんとともに、また教室から上ノ園(四)、林千(中)、高木(九)各教授がお出かけ下さって、各地でいろいろとお世話になった。教室及び講習所の卒業生の方々が母校を想い、京都をなつかしんで遠方からも總會及び懇親会にお集りになり、和気あいあい裡に親睦を重ねられたことは、大変ありがたく、うれしく又感謝に堪えぬ所でした。各地の支部長さん初め皆さん方、殊に電力会社の方々には大変御配慮を頂き、深く感謝する次第です。四国支部總會については前号で記しましたが、広島は今岡山まで新幹線がついた

十三人のクラスメートが四人になりました。どうやら神的勞務に

眞の長寿とは

大正十年卒

樋口貞三

駆使されなかつた手相だけが残った様な気がします。

ので実に近くなりました。御来会の皆さんに厚く御礼申し上げます。真田支部長は県の教育委員長も兼ねておられるので、その所管下にある県立美術館や公園等も案内して頂いた。立派な美術館で特に平柳田中氏(一〇一才)の偉業やご精進振りを伺って非常に感銘した。東洋工業の誇るロータリー・エンジンを見て頂いたことも大変合せでした。同社並に卒業生の方々に厚く御礼を申し上げます。九州でも宮田支部長さん初め九州電力、安川電機の方々に大変お世話になりました。又関門トンネルや今建設中の関門大橋の壮観をも見せて頂き、その壮大な規模に心強く思いましたし、製鉄所の壮観も外部からではありませんが、曾遊の広大な構内を想像し、又斜陽化した石炭産業の現在や北九州市の将来を想い、時世の変遷を偲んだ次第です。往復とも飛行機でしたが、帰路鳴門海峡の上空を通過し、脚下に展がる潮流を俯かんし、二カ月前に目前に見た渦潮を偲んだ次第でした。皆さんに重ねて厚く御礼申し上げます。(終)

中学のクラス会をやりましたら二十五名の生存者中十名は身的故障のため欠席しました。高等学校の仲間などから考えますと、学校時代に運動選手などで授業料を余計払った連中が永持して世間様のお役に立っている様です。やはり学校というものは体徳知の三者の訓練道場であらねばならぬと考えさせられます。どうも最近の大学の存在が知育、それも就職至上の高度経済成長と称する化物に迎合して、その中へほうり込むことばかりを教える方も教わる方も考えている様です。月給をもらった体験の少い私共にとって、そんなにも大会社の課長はん位で終る人生が、幼稚園児の頃から窺いつづけて希求せねばならぬものかと思議でたまりません。人間が人格完成の方途であると考えて子弟を学校にやる父兄が何人いるでしょうか。如何に世渡りが辛いとはいえ、余りにも嘆かわしい現象です。

表題にもどります。神身俱足が人間の存在価値である以上、小脳の不全で会に出られん様では、完全に生きていくとはいえません。医療の進歩で平均寿命が延びた様ですが、街に多くの半身不随者を見かけ、リハビリテーション科なるものが病院にあつたりしたのは、長寿人口が増えたとは

いけないと思います。

私共はここに鳥養先生、岡本先生の御健在に心から拍手を送り、心丈夫に考えております。私も戦災、片山内閣の跛行的私財奪取、二児の相つぐ分裂症等で一時は高血圧に悩まされたのですが、セルフリハビリテーションにより現在では極めて良好なる健康体を取りもどしました。少々まだ御奉公もして見たいと思っております。

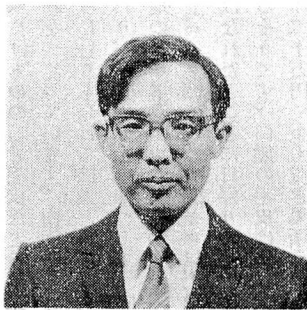
人生迷路悩多枝

人生の迷路多枝に悩む天資不磨日時暮天資磨かず日時に暮れむとす

カナダとエスキモの話

京都大学講師 昭和三十二年卒

小倉久直



私は四十五年から昨秋まで二年間カナダに滞在して研究にたずさわっております。何か面白そうなることをという編集者の御希望で、カナダの紹介をかねて題目の

ようなことにしましたが、何もエスキモの研究をしていたわけではありません。私は二年間カナダ東部のトロント大学にいましたが、そこには京大出身(昭30)の飯塚さんが活躍しておられます。私はその電波関係のグループの飯塚、イエン教授らと一緒にカナダ政府のコントラクトで水測定用のマイクロ波レーダーの研究をすると同時に客員助教授として講義を行ないました。トロントにいる間に京大の先生が何人か立寄られました。来られた順に木村先生、大

神性顯現唯惟努 神性の顯現唯惟れ努む 誰知功罪覆棺後 誰か知る功罪棺を覆ての後 昭和三十年には次の様な心境に達しました。

得滅心頭活眼生 心頭を滅するを得ば活眼生ず 百景贅我真義境 百景我に贅す真義の境 陽光燦然育万物 陽光燦然として万物を育て 大氣清冽和万象 大氣清冽にして万象を和す 同門諸賢の御健在を祈ります。

阪市大の竹屋先生、池上先生、長尾先生です。そこで一つ洛友会のトロント支部を作ろうと飯塚さんと話合ったものです。トロントは小沢征爾が交響楽団の指揮者をしてきたということぐらいいしか日本には知られていませんが、トロントは五大湖の一つオントリオ湖に面した人口二百万の町で日本の大阪のような役割をしています。オントリオ湖は四国位の大きさの湖で、ナイヤガラの下流にあたります。カナダは国が広いため政府の資源省が航空機などによる遠隔探査(リモート・センシング)の計画を進めるために大学や会社などとコントラクトをして研究の開発をやっています。実に森林、農地などの状態を特殊写真またはレーダー技術で調査する、あるいは地下資源を電波で探索することを仕事にする営業会社が二、三あります。冬季はまた氷に覆われる地域が広いので航海、氷上輸送、地理学その他の目的で航空機による氷の測定をすることが必要です。このための新しい原理によるレーダーを私らのグループで試作したので、これをカナダの西北方、アラスカに近いタクトヤクタクというところにもって行って北極の氷相手に実験をすることになったわけです。そこには政府の北極用のベースキャンプがあつて、

そこまで政府の依頼で空軍の輸送機が運搬してくれることになったのですが、頼んだ翌日にはもう出発という手続きの早さには日本と比較して一寸驚きました。輸送機は二千米位の比較的低空を飛ぶので、大陸を横切る間興味深く地上を眺めることができました。大陸中央部のプレーリーの農牧地帯、森林を横切つて、ロッキーマンから北に向つて飛びます。北上の途中も輸送機はあちこち着陸するのですが、このあたりの地名にはインディアンに由来するものがあります。インディアンに由来するものからオタワ、トロントの名もインディアン語に由来します。アメリカと同じように土着民のインディアンがいろいろの種族にわかれて広範囲に住んでいます。途中の町は主に地下資源の開発によつて出来たもので、それらの町に航空網がのびています。アラスカに近いロッキーマン山はユコン領土、その東の広大な原野は北西領土と呼ばれる地域で、北西領土内をロッキーマンと並行してマッケンジー河が北に流れて北極海に入っています。輸送機から見ると河は高くもなし低くもなし波うった原野を手で書いたように蛇行しています。マッケンジー河に沿つて森林地帯が河口近くまでのびていますが、森林といつても発育のわるい人の背丈ほどの針葉樹

が一面に生えたもので、森林限界が終るとツンドラ地帯になります。河の周辺は日本でいう平原のように、大小の湖沼が広大な平野に無数にあばたのようにちらばっています。このような地形では道路がつくれるはずはないので、交通はもっぱら航空機によることになりま。マッケンジー河に沿つて石油がとれ、デルタの奥のイヌビクという人口二千の町がその石油の集積、積出し港になっており、ここまで商業航空路が入っています。そこから百キロ程北のデルタの先の小さい半島上に前にいったタクトヤクタクがあります。これはエスキモの村で、村はずれに政府の基地があるほか沖合の油田の石油貯蔵所、米軍の無人レーダー基地などがあります。仕事に來ている白人もいれて村の人口は四百人位です。このエスキモから他のエスキモの生活をおしはかることは正しくありませんが、少くともこのエスキモは政府基地に近いだけあつて大分文明の影響を受けています。住居も二、三年前に政府によつて石造りからプレハブ式に建てかえられ、小学校、ストアや教会までできています。有名な氷のイグルーは狩猟のさいのテント代りで常住のものではないようです。また建物の中はベッドとストーブ位であとに家具といえ

るものはないようです。基地に働きて來ているエスキモは英語はかなり上手に話しますが、書く方は正確ではありません。エスキモは大体狩猟と漁の生活で、その他みやげものの石骨毛皮などの細工物をつくっています。白熊やあざらし狩りも今日では犬と猟銃に代わり、冬の氷上の魚つりも、基地のスキドゥ(カタビラ)つきの雪上バイク)にのつて50キロ以上もはなれたところに日帰りで出かけるそうです。白熊の毛皮は一枚大抵二十万円でも置き場所もない我々には縁のないものでした。魚つりなど鮭ほどの鱒がふんだんととれるそうです。このようにエスキモの生活に文明が入つても、秩序道徳の概念は低く、喧嘩が刃傷、殺人沙汰になることも時々あるらしく、アルコール類の販売は行なわれていません。エスキモのように広大な寒冷地に住む種族は移動することも、隣りの種族と交流することもなく小數単位で生活するわけです。生活様式の交換や言語の方はどうなつていのか興味があるのですが、血族結婚のことは意識して、インディアンや白人と結婚しているエスキモもいます。このように基地に近いところではエスキモも文明の恩恵をこうむつて、店にプレイボーイすら並んでいます。基地からすこし

離れたところではエスキモの生活の程度は大分差があるようです。ところでレーダーの実験の方は、チャーターしたヘリコプターで北極海上を飛んで行ないました。北極圏は白夜で太陽は沈まないのでも真夜中でも明るく我々には好都合でした。真夜中に村を散歩してみるとエスキモの子供達は夜昼関係なく遊びまわっています。太陽は寒い日は大抵薄曇りのように終日かすんだように照っていますが、これはおそらく雪の細かい結晶が落ちないで空中にただよっているためでしょう。そのような太陽に照らされた北極海の氷の上に降り立っていると、雪がチラチラ光つて、氷自身の圧力で砕けてもろあがつたアイスリッジが砂丘のように見えてアフリカの砂漠にいたるような錯覚をおこしました。北極に三週間ほどいて南のロッキーマン近くのエドモントンに戻った時にはすでに五月の下旬で、白い世界から緑の世界にとびこんだようにかえつてまぶしい感じがしたものでした。丁度そのころはカナディアン・ロッキーマンは春山のシーズン、飯塚さんを誘つてロッキーマンをドライブし、春山の眺めを満喫してトロントに戻りました。

この研究はまだ進行中で、拙文が読まれるころには再度の北極行き準備がすすめられていることだろうと思います。

中部支部ゴルフ同好会の記

大正十五年卒 田中卓二

伊勢志摩国立公園内の五ヶ所湾内にある七日島（日本電話施設（所有）で中部支部例会を開いた翌日、十月二十二日志摩カントリークラブにて第一回プレーを行なった。

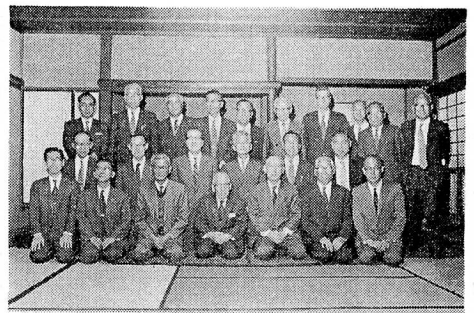
当日は朝方より降雨で然も風強く、心配しながら雨中をゴルフ場に行き、雨具を付けてコースに出たが、幸にもスタートの十時半には雨も止み無事プレーすることが出来た。

本コースは太平洋に面したサイドゴルフ場で、アウトは海岸線に沿った波打端までの平坦なコースであるが、インは海岸壁の低い坂あり、谷越えありの起伏の多いコースである。コースよりは波切町方面より安乗町方面までの海岸線を見渡すことが出来、時には沖合の商船やタンカーが眺められることが出来る。

本コースは初めての人も多く、OBも相当あり、難行苦行で実力を発揮されたい嫌いはあったが、大学より例会に出席された大谷教授の特別参加があつて、一層懇親が深められた。

終了後パーティーでプレー中の失敗談に花を咲かせ、今後再々続行することを申合せ十七時散会した。スコアは次の通りである。ハンドキャップは申出によつたので多少の不均衡は止むを得ないこととて回を重ねるに従い訂正される。

氏名	卒年度	OUT	IN	Gross	H. Cp.		Net	Rank	訂正	
					H.	Cp.			H.	Cp.
大谷 泰之	S・13	53	46	99	30	69	2		27	
石川 進	S・26	56	51	107	30	77	5			
田中 卓次	T・15	53	50	103	28	75	3		27	
西尾 又一	S・23	50	51	101	21	80	6			
木崎 和郎	S・28	62	61	123	32	91	8			
増田 敏	S・38	57	68	125	32	93	10			
遠藤 茂	S・27	50	40	90	28	62	1		20	
北村 祐一	S・29	56	60	116	30	86	7			
白井 晋	S・41	51	52	103	28	75	4			
松本 幸男	S・41	62	60	122	30	92	9			



昭和十一年卒

三十六周年クラス会

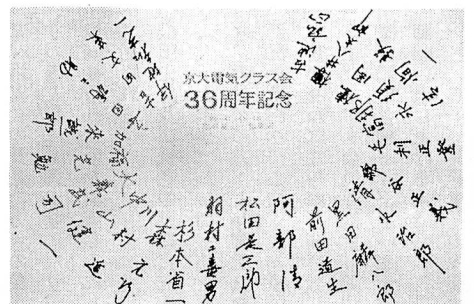
去る十一月十八日、昭和十一年卒業生の三十六周年記念クラス会を開催しました。会場は京都嵐山の渡月橋に近い松嵐居。私達はこれまで五年毎に三回集り、二十五年では全員の家族写真をアルバムに作って配布しました。四回目は幹事の怠慢(?)で遅れて三十六周年となった次第です。

卒業生四十二名中現存者は二十九名ですが、一緒に机を並べた諸兄にも呼びかけ、半数に当る二十名が集りました。松田、阿部、林の三先生に御臨席を頂いて、盛大な会合になりました。鳥養先生も御臨席下さる予定でしたが、折悪しく軽い風邪とかでお姿を拝せず残念でした。当日は定刻の午後五

時半には全員が集って、寄書や記念写真の後、大森幹事の挨拶に始まり、先づ三先生からお話を頂きました。当時の思い出や最近の御感想など大変懐しく拝聴しました。先生方は御高令にも拘らず、とてもお元氣な上に今でも論文などを読んでおられる御様子に、還暦を迎えた元学生共は、この頃は学会誌さえあまり手にしないことを思い、ただ膝を揃えてかきこまる有様でした。

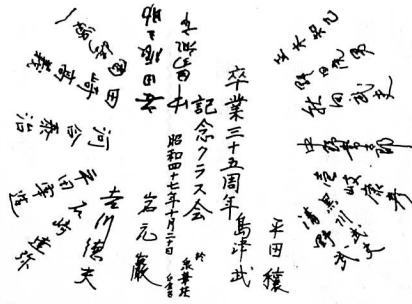
さて、宴会も進み、酒が廻ると、六年ぶりの再会でお互いに杯のやりとりや話がはづみ、その間に祇園の美妓達の芸能が一層興を添え、大変賑やか宴席になりました。時の経つのも忘れる程に話は尽きませんでした。遠方へ帰る人の都合もあり、次の再会を約して九時前散会としました。

散会后、十名程は下鴨の日新電機寮(谷崎潤一郎旧邸)に席を移し、改めて飲み直し、語り直し、一部の者は遅くまで麻雀をやるなど、程の夜長を充分に楽しみました。なお、当日出席の全員で、逆境に挫けず勉強を続けている級友桜井君(当日出席)を激励するためのカンパを行ない、後日同君へ届けました。欠席された諸兄も御賛同の方は、何かの激励方策を考えて頂ければ有難いと思います。(森記)



昭和十二年卒業生

三十五周年同窓会



昭和十二年卒業生は卒業三十五年を記念して、昭和四十七年十月二十日東京白金台泉華荘で同窓会を開催した。場所が東京だった

めに、名誉教授の先生方の御出席が得られなかったのは淋しかったが、現在員三十四名に対し出席者は十八名で、まずまずの盛会であった。型通り近況報告があり、同年他界した稲田、河野両君を偲び、飲むほどに仕事の話からゴルフの話、孫の話、はては世界的大発明の披露にまで発展して、時の移るのを忘れ、五年後の再会を約して解散した。

(幹事) 黒川、正木、清野

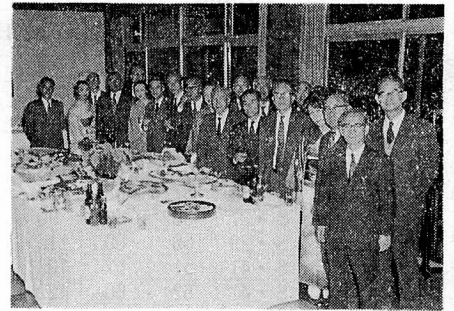
去る一月二十五日に愛媛大学工学部教授奥田一郎氏が不慮の交通事故にて御逝去になりました。二十五日夜八時二十分愛媛大学の安藤勝年先生より緊急の報せがありましたので協議の結果、山口敬二君にクラス代表として派遣することにし、二十一日早朝に出発してもらいました。

又、地方の方々には山口君が現地松山市より書面を以て御報告しましたとおり、二十八日松山市内正宗禅寺(通称子規堂)にて、愛媛大学工学部葬をもって取り行なわれました。なお、京都より上西亮二先生の代理として竹村清君と沖徹次郎君が参列し、友人代表として弔辞を捧げました。

故奥田一郎君の郷里は、京都市右京区太秦に御座いますので、百力日近い日を御遺族と御相談して、奥田家の菩提寺の証行寺(京都市右京区太秦宮ノ前町八)に於て、合同クラス会有志の形で追悼供養を取り行ないたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

奥田一郎君を悼む

愛媛大学教授、工博、奥田一郎君(講昭一一卒)は、旧臘十二月廿五日夕五時頃松山市内にて交通



事故のため即死された。奥田君は講習所卒業後施設部電力掛より工学部電気工学教室に転

じ、(林)研究室にて高電圧関係の研究に従事され、又一回生の学生実験を担当されていた。昭十六年新居浜高等工業学校の創立に際して、助教として赴任され戦後の学制改革に伴い愛媛大学講師、助教を経て昭和卅四年教授となり、電力工学講座を担任されて今日に至っていた。至誠篤実にして恩師、諸先輩に尽されるには丁重であり、又学生の指導育成に當つては懇切丁寧で峻厳のうちにも温情のこもった教育方針であった。

故関野先生と林先生の良い所を取り交ぜた理想的な技術教育家であった。同大学工学部の松山市への統合移転についても常に率先して事に当られ、電子工学教室の創設、大学院修士課程の設立にも安藤教授の良き協力者として努力されて来ました。卒業生の就職については依頼先の会社へは必ず出向き、其の後は折りにふれて訪ねる等今日では珍らしい実直な人柄でした。又努力の人であり、多忙な教務の間にもよく研究を続けられ、幾多の貴重な業績を挙げられました。

特に同窓会の活動については、電気工学講習所の立命館への合併後の卒業生の行末を想い、昭11年卒以後で電気工学教室に勤務した人達と語り合つて末永く親睦を重ねられるように合同クラス会の提

案をして戴いた。御蔭でみんなが何時集つても、若さを忘れずに歓談出来る場が出来て楽しみを創つてくれたことは級友一同の感謝するところです。

君の訃報を聞いたときには、誰もが我が耳を疑つて二度、三度と問い訊して居りました。中には四、五日前に電話連絡で話し合つたのでと仲々信じて貰えなかった例も二、三あります。愛媛大学の電気工学教室の充足も之から再び軌道にのせなければならぬ重大時機に當つて、誠に推進力の根元である君に逝れては教官も学生諸君にとつても大きな痛手でしょう。願くば級友一同と共に君の霊が安らかに眠り賜うことをひたすらに祈るのみです。

元電気工学講習所

昭和十一年卒業生

友人代表 藤村 俊一

山口 敬二

訃 報

- M41 小島喜久馬 47・8・31
- T12 土屋 弘成 47・11・15
- T5 長井 要藏
- S9 森島 五郎
- T13 奥谷 久彦
- 講14 高橋 広市
- 講T10 山本大五郎

- 講15 中野益次郎 S47・7・3
- 講5 原田 和助 S46・11
- 講S11 奥田 一郎 S47・12・24
- S13 倉内 正 S47・6
- S7 松岡 重一 S48・1・19
- 講16 水原 経祐 S48・1

以上の方々のご逝去なされました謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

○新年御目出度うございます。

久し振りに鳥養会長に御寄稿を御願ひしました処、御快諾下さり冒頭に飾らして頂きました。先生は本年八十六才になられますが、御元氣にて度々応用科学研究所に御見えになり、又月に一度上京せられ、学士院に御出席、洛友会の長老の方々の集まりの鶴友会にも御出席になり、歓談せられるのをお楽しみにして居られます。

○松田先生及び長老の樋口貞三氏(大正十年卒)から御寄稿を頂き、大先輩の方々より御元氣な近況を承わり、心強く我々後輩も奮起せねばならぬと痛感致します。本年も会員各位より興味深い記事を御寄せ下さいませ御願ひ申し上げます。

(幹事 山本記)